

「公衆衛生看護実習指導場面を題材にしたリフレクティング対話ワークの
採用と指導者特性に関する調査
-ネガティブ・ケイパビリティの観点から-」
へのご協力をお願い

1. はじめに

この説明文書は、生命科学・医学系研究「公衆衛生看護実習指導場面を題材にしたリフレクティング対話ワークの採用と指導者特性に関する調査」へのご協力をお願いするにあたり、その詳細を説明した文書です。この文書は、あなたが本研究に参加するかどうか決めていただく際に、研究責任者・研究分担者による説明を補い、この研究の内容を理解していただくために用意しました。よくお読みになり、わからない点や疑問点がありましたら、研究責任者・研究分担者に遠慮なくお尋ねください。

なお本研究は、研究の実施に先立ち、山口大学大学院医学系研究科保健学専攻生命科学・医学系研究倫理審査委員会（以下、「倫理審査委員会」という）において生命科学・医学系研究実施計画書、同意説明文及び同意書の内容と研究実施の適否に関して、倫理的・科学的妥当性の観点から審査を受け、承認されており(No.916-1)、保健学専攻長から研究実施の許可を得ています。

2. 研究の目的及び意義について

本研究の目的は、牛尾らが考案した「リフレクティング対話ワーク」が、学生や後輩保健師を育てる対話力を高めるプログラムとして教員や保健師に受け入れられるかどうか、本ワーク手法の受け入れに対し、教員や保健師の何らかの特性が関係するののかについて、特にネガティブ・ケイパビリティの観点から明らかにすることです。同時に、本ワークの題材として、指導場面で教員や保健師が悩みがちな場면을広く収集することも目的としています。

本研究のゴールは、未経験の状況にも対応できる柔軟性創造性を備えた保健師人材育成に資することです。

「リフレクティング対話ワーク」とは、保健師基礎教育や現任教育の現場で、教員や後輩保健師を指導する立場の保健師が経験しがちな、学生・後輩保健師へのかかわりに悩む典型的な場面をとりあげ、その場に登場する教員・保健師の立場であったなら、どのような意図でどのようなかかわりをするかを対話する方法です。この方法は、学生や後輩保健師に、あらかじめ決まっている答えをただ伝えるのではなく、深い質の理解や思考をもたらす対話の技術を、教員・保健師自らが構築するうえで有効な方法と考えています。

ネガティブ・ケイパビリティとは、「答えの出ない事態に耐える力」「あえて答えを出さず、そこに踏みとどまる力」とされ、対人支援職に必要な態度であり、保健医療分野においても注目されています。本ワークでめざす、正解のない問題に取り組む力をもたらす対話法に関連すると考えました。

3. 研究方法について

(1) 研究概要

①調査対象と調査方法

学士課程で保健師教育の実習演習指導に従事している教員と、実習指導や後輩保健師指導の経験がある保健師を対象に、インターネットフォームによる無記名質問紙調査を行います。

②調査項目

1 リフレクティング対話ワークの受け入れに関する項目

- ・提示した題材と同じような経験の有無
- ・本題材で教員・保健師同士、議論したいかどうか

2 指導者特性に関する項目

- ・提示した題材における対応行動
- ・曖昧さ耐性（ネガティブ・ケイパビリティの一側面を把握する尺度として、医学生・研修医対象に開発された曖昧さ耐性尺度^{1) 2)}を教員・保健師対象に修正したもの）

- 1) Hancock J, Roberts M, Monrouxe L, Mattick K, Medical students and junior doctors' tolerance of ambiguity: development of new scale. Adv Health Sci Educ Theory Pract. 2015;20(1):113–30.
- 2) Fujikawa H, Son D, Hayashi M, Kondo K. Translation, adaptation, and validation of the Tolerance of Ambiguity in Medical Students and Doctors (TAMSAD) scale for use in Japan. BMC Medical Education (2023) 23:405 <https://doi.org/10.1186/s12909-023-04391-1>

- ・年齢、教育・実践経験年数、所属機関種別等

3 対話ワークの題材

- ・指導場面で困った状況についての自由記述

③分析方法

記述統計により傾向を把握する。1の回答に基づき群分けし、名義尺度との関連は、 χ^2 検定またはFisherの正確確率検定、曖昧さ耐性尺度の値は差の検定等を行う。また曖昧さ耐性尺度は、探索的因子分析及び確認的因子分析を行い、年齢及び教育や実践の経験年数との関連を分析する。質問紙に含めた自由記載の回答は質的分析を用いてカテゴリー化を行う。

(2) 研究期間

倫理審査委員会承認後～2027 年 3 月 31 日

(3) 研究実施体制

本研究は、次の体制で実施します。

研究責任者 牛尾裕子 山口大学大学院医学系研究科保健学専攻 教授

研究分担者 村上祐里香 山口大学大学院医学系研究科保健学専攻 助教

田村須賀子 富山大学学術研究部医学系 教授

嶋澤順子 東京慈恵会医科大学医学部 教授

大澤真奈美 群馬県立県民健康科学大学看護学部 教授

佐藤紀子 千葉県立保健医療大学健康科学部 教授

米増直美 鹿児島国際大学 教授

沖林洋平 山口大学大学院教育学研究科 准教授

研究協力者 藤井紀子 萩市子ども家庭センター 保健師

4. 研究への参加について

本研究へ参加するかは、決して強制するものではありませんので、あなたご自身の自由意思でお決めください。参加しない場合でも、あなたに一切の不利益はありません。回答には 15～20 分程度かかります。無記名の調査であり個人が特定されることはなく、得られたデータは研究目的のみに使用します。

研究参加の同意の有無を、アンケートフォームの最初の項目で確認し、否の場合はそこで回答は終了になります。匿名の調査であり、回答者を特定できないため、回答後は同意の撤回はできず、アンケート回答の送信をもって同意したものと見なします。

5. 参加基準について

看護系大学で公衆衛生看護実習指導に従事する教員及び都道府県保健所や市町村保健センターなどで実習指導や後輩保健師の育成指導を担う保健師とします。

実習指導における具体的な場面を想起しながら回答してもらうために、調査時点の直近 2 年程度において、実習において直接学生指導を行っていない教員、学生実習指導や後輩保健師指導を行っていない保健師は除外します。

6. 参加予定人数について

200 人とします。

7. 参加することにより予想される効果及び有害事象について

本調査に回答することを通して、あなた自身の学生や後輩保健師へのかかわり場面を想起して振り返る機会となります。本調査の長期的な効果は、教員や保健師による人材育成の質向上に寄与することです。

アンケート回答には 15～20 分程度お時間をいただくため、時間的拘束が生じます。また、学生や後輩指導に関わる悩みや困難を振り返ることで、一時的に心理的負担を感じる可能性があります。答えたくない質問は、無回答とすることが可能です。

8. 倫理指針の遵守及び個人情報の取り扱いについて

本研究に関係する全ての研究者は、ヘルシンキ宣言（最新版）、及び「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（令和 5 年 3 月 27 日一部改正、7 月 1 日施行）に従って実施します。

本研究実施に関わる者は、個人情報の保護に十分配慮します。

9. 試料・情報の保管及び廃棄の方法について

研究責任者の施錠できる研究室において、電子データはパスワードを設定し、大学専用の Google ドライブに保管します。

データの保管期間は、研究終了の報告日から 5 年間又は研究結果の最終公表の報告日から 3 年間いずれかの期間のうち長いものとします。保管期間満了後は、Google ドライブに保存されたデータは復元不可能な形で消去し、処理します。

10. 経済的負担及び謝礼について

オンラインでの調査となり、データ通信費を負担していただくことになります。謝礼はありませんのでご了承ください。

11. 研究に係る資金源及び起こりえる利害の衝突について

本研究は、文部科学省科研費基盤研究（c）（25K14215）「教員・指導者によるリフレクティング対話ワークを戦略とした保健師人材育成法の実装」（研究代表者牛尾裕子）で実施し、各研究者の職務遂行を妨げる（責務相反）ような相反する対立事項もないため、本研究の「起こりうる利益の衝突」は存在しません。また、研究の実施が研究対象者の権利・利益を損ねることはありません。

12. 研究結果の帰属と結果の公表について

（1）研究結果の帰属

本研究で得られた知的財産権の帰属先は山口大学です。

(2) 研究結果の公表

個人や地域を特定できないようにした上で、看護学関連学会学術集会及び関連する学術雑誌で発表する予定です。

13. 試料・情報の二次利用について

本研究で得られたデータは、将来の別の対象集団で得られたデータとの比較などに用いる可能性があります。研究で得られた情報を将来別の研究に用いる際は、改めて倫理審査委員会に申請する等の適正な手続きを行います。

14. 試料・情報等の記録の閲覧について

あなたの人権が守られながら、きちんとこの研究が行われているかを確認するために、研究の関係者や倫理審査委員会などの関係者がこの研究で得られたあなたに関する記録などを見ることがあります。しかし、このような場合でも、これら関係者にはあなたのデータであると特定されることはありませんし、関係者には守秘義務が課せられていますので、あなたの情報は守られます。

15. 相談窓口について

この研究について、何かお聞きになりたいこと、心配なことがありましたら、いつでも遠慮なく研究責任者・研究分担者にお尋ねください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報保護や当該研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、研究計画及び研究方法に関する資料を閲覧することができます。

1. 牛尾裕子（研究責任者）

山口大学大学院医学系研究科地域看護学分野 教授

〒755-8505 山口県宇部市南小串1丁目1-1

Mail : y_ushio@yamaguchi-u.ac.jp

2. 村上祐里香（研究分担者）

山口大学大学院医学系研究科地域看護学分野 助教

〒755-8505 山口県宇部市南小串1丁目1-1

Mail : myurika@yamaguchi-u.ac.jp

3. 田村須賀子（研究分担者）

富山大学学術研究部医学系

〒930-0194 富山市杉谷 2630 番地

Mail : tamusuga@med.u-toyama.ac.jp